

地域において75 g ぶどう糖負荷試験により判定された 耐糖能異常者の死亡率についての検討

サイトウ 功* ヨネマス クニオ
齊藤 功* 米増 國雄*

目的 地域において、糖尿病スクリーニングとして実施されてきた75 g ぶどう糖負荷試験 (OGTT)の受診者を対象に追跡調査を行い、耐糖能異常者の死亡率について検討すること。

方法 大分県 A 保健所管内の7町村 (人口5万4千人, 1993年)において, 1987~1995年度における基本健康診査により, 一次検査として尿糖, 自覚症状, 随時血糖検査, 既往歴, 家族歴をもとに選択されて OGTT を受診した1,645人の内, 2001年12月31日までの生死, 転出の確認ができた1,639人を本研究対象者とした。米国糖尿病学会基準に従い, 初回 OGTT の成績により糖尿病群 (471人), Impaired glucose tolerance (IGT) 群 (408人), そして正常群 (760人) に分類した。当域における1987年から2001年までの全住民 (40~89歳) の死亡率を基準集団とし, 間接法により年齢調整死亡率, ならびに標準化死亡比 (SMR) を算出した。次に, 本コホート集団において, Cox 比例ハザードモデルを用い, 正常群に比した IGT 群と糖尿病群の死亡に対する年齢調整済み相対危険度, さらに Body Mass Index, 血清総コレステロール, 高血圧, 喫煙, 飲酒, 糖尿病既往歴, 糖尿病家族歴の要因で調整した相対危険度を算出した。

成績 平均9.4年間の追跡の結果, 正常群70人, IGT 群46人, 糖尿病群71人の死亡を確認した。全住民を基準集団とした場合に, IGT 群, 糖尿病群の SMR は男女とも有意に高くはなかった。死亡に対する年齢調整済み相対危険度は, 正常群を1とした場合に男性の IGT 群1.10 (95%信頼区間: 0.72-1.67), 糖尿病群1.54 (1.05-2.24) であった。女性ではそれぞれ, 0.91 (0.40-2.06), 0.88 (0.43-1.82) であり, 死亡のリスクは増加しなかった。さらに, 男性では OGTT 受診時の交絡要因を調整した上でも正常群に比した糖尿病群の死亡に対する相対危険度は1.74 (1.11-2.75) と有意に増加した。

結論 本研究において OGTT によりスクリーニングされた IGT 群, ならびに糖尿病群の死亡率は, 一般住民と比較して有意に高くはなかった。本コホート集団の検討から, 男性の糖尿病群は正常群に比して有意に死亡のリスクを増加させた。一方, 女性での耐糖能異常と死亡との関連は認めなかった。

Key words : 75 g ぶどう糖負荷試験, 耐糖能異常, 糖尿病, 死亡率, スクリーニング

* 奈良県立医科大学公衆衛生学教室
連絡先: 〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学公衆衛生学教室 齊藤 功